

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4079800225, 社会福祉法人 福寿会).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福智山系の山々が連なる新緑豊かな自然環境の中に「グループホーム なごみの丘」は位置しています。広々とした敷地の中には、30年以上の歴史を持つ母体となる特別養護老人ホームが近隣して...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に独自の理念を掲げて「安心・ふれあい・ゆとり」を目標として、毎朝復唱を行い理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば同一法人の合同行事等に参加を行い、地域住民の方との交流を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い行事は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々から悩みごとや相談のお問合せがあれば、自分たちが実践していることなどを伝えている。尚、福智町社会福祉法人地域公益活動連携協議会にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は会議の開催は行わず資料等の送付を行い、ご意見・ご要望を頂きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福智町役場担当者の方や地域包括支援センター職員方と、情報や意見交換を行い情報共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の観点から夜間は施錠しているが、日中は開放している。散歩等の希望があればその都度、対応している。職員会議や身体拘束適正化委員会等で、日々のケアについて見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた部内研修や外部研修にも参加を行い、職員全員で共通認識を図っている。日々、虐待が発生しない環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となったときには迅速に対応できるように、外部研修の参加や成年後見制度等について社内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に管理者が十分な説明を行っている。尚、不明な点があればその都度、相談や説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望があれば、出来る限り意向に沿えるように日々努めている。面会等の際にもご意見・ご要望を伺っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やユニット会議等にて意見交換を行い、可能な限り意見を反映するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いて、年に2回職員面談を行い、一人ひとりが向上心を持てるように取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たっては、年齢や性別による排除は行っていない。また、得意分野を発揮できるように配慮している。資格取得や研修参加等の希望があれば配慮している。尚、法人としては人事考課制度を取り入れている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中で「個人の尊重」を謳っており、一人ひとりが理念の共有・実践に努めることで人権尊重につなげている。高齢者虐待防止や身体拘束についても、会議や業務の中で周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過で思うように外部研修の参加が出来ていないが、毎月部内研修を行い、知識・技術の向上に日々取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年であれば田川地区介護事業所協議会の勉強会や地域の研修会に参加しているが、コロナ過で思うように参加が出来ていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前には、ご本人及びご家族の方からの要望やこれまでの生活歴等の聞き取りを行いケアプランに取り入れている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からご家族の不安やご要望をその都度聞き取り、信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1泊2日や2泊3日の体験入所を実施しており、必要とあれば関係サービス機関との連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵や得意分野などを教えて頂くことも多々あり、同じ時間を過ごしながら支え合う関係づくりが構築できるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で面会は思うように出来ていないが、家族の力が必要と考えられる時には電話連絡して貰えるようお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で外出制限や面会制限を実施しているので、地域住民の方や馴染みの場所等に行くことは出来ていない。法人全体での合同行事も中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの趣味や特技を日々の生活の中で活かして貰い、利用者間で馴染みの関係が構築できるように支援している。日々のレクリエーション活動の中で職員を介して、交流が図れるように取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、必要とあれば病院や関係施設と連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝えることが困難な方には表情や行動に留意している。また、家族や関係者の方からの情報も参考にして本人本位のケアが行えるように取り組んでいる。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に暮らしの情報シートを用いて、ご本人やご家族の方から聴き取りを行い、今までの生活歴を重視している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活の場に置いても、個人の生活スタイルや身体状況に応じて対応できるように日々取り組んでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成に置いては、ケアマネージャーだけではなく、ケース会議を毎月開催して職員間で意見交換を行いケアプラン作成を行っている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録を記入するように努めている。状態変化があればその都度、職員間で話し合いを行い情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態や状況変化に留意してその都度、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年であれば、地域の行事に参加する機会があり、生活の様子を見て頂く機会がある。法人全体での合同行事にも参加して頂いているが、コロナ過ですべて中止となっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、入所前から通院していた病院にも受診している。受診時には身体状況の報告を行い、適切な治療が受けられるように対応している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方に状態変化があれば、訪問看護師に報告・相談を行い適切な治療や受診が受けられるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と共に、主治医・担当看護師・ソーシャルワーカー等の面談に参加している。早期退院や円滑な受け入れが行えるようにしている。電話による状態報告も受けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化における指針の説明を行っている。尚、身体状況に応じては併設施設への転居を含めて話し合いを行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応方法についての研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練以外にも地震等の避難訓練や対処方法の訓練を行っている。地域消防団の方にも協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的理念の基に人権・人格・プライバシー保護に配慮した言葉遣いや対応に努めている。排泄介助や入浴介助の際には、特に注意している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位を尊重して自己決定ができるような環境作りや支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは設定しているが、その日の天候や体調に応じてその時々にしたいたい事を尋ね希望に添えるように対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者の方が好む衣服や馴染みの物をご家族に持って来て頂き、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。お化粧の声掛けも行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の状態に応じた食事形態の提供を行い、見た目の工夫にも配慮している。また、後片付けでは無理のない範囲で職員と一緒にやっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士によるカロリー計算や一人ひとりの状態に応じて食事量の調整も行っている。水分量にも十分に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による個別に応じた口腔ケアのアドバイスや指導を受けている。歯間ブラシや舌ブラシ等の活用を行い、清潔の保持にも努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の訴えがなく紙オムツを使用している利用者の方でも、日中は出来る限りトイレでの排泄介助に取り組んでいる。排泄チェック表の活用もしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操やケアピクス等の運動を行っている。園庭の散歩も随時行っている。水分補給も個人の状態に合わせて対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方の希望や体調に配慮して週/3回実施している。時間帯の変更も随時行っている。尚、併設施設の特槽入浴も行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて居室やソファにて休息できるように対応している。体調に応じては居間で休んで頂くこともある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認できるように事務所に置いている。お薬の追加や変更があればその都度、申し送り帳に記載している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を踏まえ食器返却同行やお品書き記入等の、個別の役割を行って頂き日常生活の中で達成感や気分転換が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の要望があれば、いつでも対応できるようにしている。ドライブや季節に応じた園外行事は、コロナウイルス感染症予防の観点から中止している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己所持の希望があればご家族了承の上で、自己にて管理して頂き買い物等の際には支払いが行えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいと希望があればその都度電話を繋ぎ、連絡できる体制を作っている。携帯電話を使用されている方も数名いる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室には掘り炬燵を備え広々とした空間を作りや整理整頓に心がけ、それぞれが好む場所で過ごして頂いている。天気の良い日には、ウッドデッキにて日光浴も楽しむことができる。季節感を感じる事が出来る作品や花も飾っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方一人ひとりの生活スタイルに応じて過ごしやす場所・空間作りの提供に心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、本人・ご家族の方が望むように飾り付け等を行って頂いている。尚、ご家族の方には、出来る限り馴染みの物を持参して頂くようお願いしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送れるように、環境整備には気をつけている。尚、安全な移動が行えるように危険因子を取り除いている。		